



エピック・ヘッジファンド・セレクション1 月次運用レポート

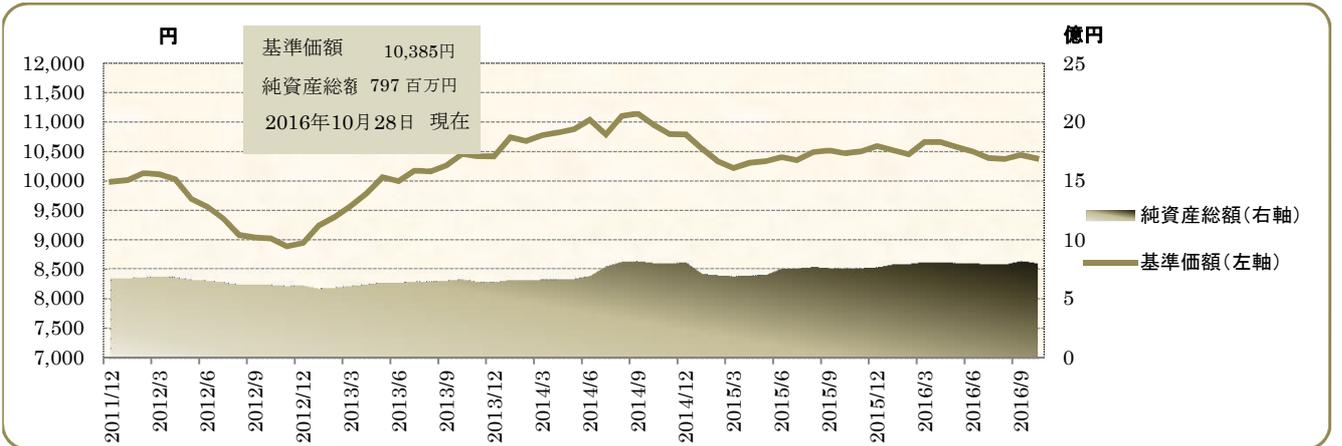
ケイマン諸島籍オープン・エンド契約型外国投資信託(追加型)

作成基準日

2016年10月28日

基準価額騰落率推移 (諸費用控除後, 税引前)

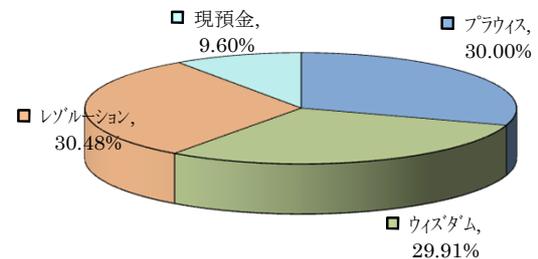
2016	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	年初来
騰落率	-0.65%	-0.67%	2.02%	-0.04%	-0.75%	-0.70%	-1.11%	-0.13%	0.67%	-0.58%			-1.96%
2015	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	年初来
騰落率	-2.19%	-2.07%	-1.13%	0.85%	0.28%	0.68%	-0.50%	1.31%	0.29%	-0.49%	0.32%	0.87%	-1.85%
2014	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	年初来
騰落率	3.05%	-0.55%	0.89%	0.41%	0.55%	1.48%	-2.27%	2.94%	0.34%	-1.73%	-1.44%	-0.02%	3.54%



運用実績

設定日:	2011年12月19日	
決算日:	毎年11月30日	
当初設定元本:	673 百万円	
基準日:	2016年10月28日	
基準価額:	10,385円	対前月比 -61円
純資産総額:	797 百万円	対前月比 -18.8 百万円
設定来高値:	11,146円	
設定来安値:	8,888円	
期間別	3ヶ月	-0.04%
基準価額騰落率	6ヶ月	-2.58%
設定来	ファンド	3.85%
基準価額騰落率	TOPIX	92.44%
	日経平均	107.65%

投資対象ファンドへの資産配分 (2016年10月28日現在)



運用実績等に関するグラフ、数値等は過去のものであり、将来の運用成果等を示唆または保証するものではありません。

投資対象ファンドの基準価額騰落率推移 (諸費用控除後, 税引前)

2016	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	年初来
プラウイス	-0.72%	-0.39%	1.59%	0.73%	-1.70%	-2.76%	-0.40%	0.23%	0.59%	0.33%			-2.55%
ウィズダム	-0.47%	-2.84%	1.22%	0.50%	-1.58%	-1.30%	-0.63%	-1.17%	0.52%	-0.71%			-6.33%
レゾリューション	0.02%	1.80%	4.82%	-0.39%	1.60%	2.29%	-1.64%	1.14%	1.99%	-0.53%			11.50%
2015	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	年初来
プラウイス	-2.91%	0.43%	-0.74%	1.81%	0.84%	-0.27%	0.22%	0.84%	0.48%	0.83%	0.19%	0.15%	1.82%
ウィズダム	-1.38%	-1.99%	-0.24%	0.27%	0.85%	1.82%	0.96%	1.39%	-0.95%	0.00%	0.92%	0.54%	2.14%
レゾリューション	-1.92%	-4.43%	-1.60%	1.93%	0.57%	2.72%	-1.63%	3.38%	2.61%	-1.26%	1.14%	3.19%	4.44%
2014	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月*	8月	9月	10月	11月	12月	年初来
プラウイス	2.24%	-0.37%	0.41%	1.08%	0.88%	2.08%	-0.16%	-0.32%	1.01%	-0.04%	-0.24%	-1.41%	5.22%
ウィズダム	0.94%	-0.06%	0.36%	0.81%	0.50%	1.06%	-0.30%	1.17%	0.46%	-0.04%	0.03%	0.33%	5.38%
レゾリューション	6.74%	-0.06%	2.94%	0.52%	1.36%	2.63%	-2.53%	5.02%	1.61%	-3.52%	-0.75%	2.09%	16.76%

* 上記騰落率は投資対象ファンドの費用控除後の騰落率です。エピック・ヘッジファンド・セレクション1 (以下「HFS」という) にかかるコスト等が含まれないため、投資対象ファンドの騰落率を資産配分結果で加重平均した場合、HFSの基準価額騰落率とは一致いたしません。

** 10月31日がアイルランド(ファンド管理会社所在地)祝日の為、相場動向コメント以外のパフォーマンスは10月28日を基準としています。



エピック・ヘッジファンド・セレクション1 月次運用レポート

相場動向

10月の株式相場は、日経平均で5.93%上昇の17,425.02円、TOPIXで5.31%上昇の1,393.02ptとなりました。ドイツ銀行問題が一段落し、月初は買戻し優勢で始まり、月末は、過度な円高懸念の後退による先高感や、日銀のETF買い入れ観測などを背景に、海外投資家などを中心に買われ上昇して終えました。TOPIXは約半年ぶりの高値となりました。

上旬は、主力の外需株などを中心に上昇しました。ドイツ銀行問題が一段落し、米国の年内利上げ観測の再燃や、米経済指標の改善を受け、米株高・円安・ドル高・原油高を背景に上昇しました。

中旬は、一度下落した後、上昇しました。円相場が円高に振れ、利益確定売りが入り下落しましたが、米景気回復期待や、原油価格上昇による資源関連国経済への不安後退から上昇傾向となりました。

下旬は、上げ幅を拡大しました。原油高や過度な円高懸念の後退に加え、日銀のETF買い入れ観測なども上昇要因となりました。先高観が広がり、海外投資家などを中心に外需株や金融株などが買われました。

需給面では、海外投資家が3ヵ月ぶりに買い越し主体となりました。一方、国内の投資主体は、信託銀行が2ヵ月連続の売り越し、個人投資家は4ヵ月連続の売り越し、投資信託が2ヵ月ぶりの売り越し、事業法人が7ヵ月連続の買い越しとなりました。

セクター別騰落率では、証券、水産・農林、保険、金属製品、海運が上位となり、その他製品、食料品、鉄鋼、サービス、医薬品が下位となりました。

東証一部の売買代金は1日当たり1.92兆円と、2ヵ月連続で活況の目安となる2兆円を下回りました。

新興市場の騰落率は、JASDAQインデックスが3.1%の上昇、東証マザーズ指数は1.3%の下落となり、いずれもTOPIXをアンダーパフォームしました。

ファクター面では、9月に小休止となっていた高リスク銘柄のアウトパフォームや、割安株のアウトパフォームが再び観測されました。この傾向はグローバル株式市場でも見られており、下期以降パリュファクターの緩やかなアウトパフォームがグローバルに継続しています。

組入ファンドの運用状況と今後の市況見通し及び投資戦略

【ブラウイス】

＜ファンド運用状況＞

10月の運用成績はJPYクラスで+0.33%となりました。REITセクターにおいて割高・割安の修正幅が大きかったことや、業績対比で割安感の強かった化学セクターのロングポジションが上昇したことがプラスの要因となりました。

セクター別の損益では、REIT、化学、小売り、陸運セクターでプラスとなり、電力ガス、機械、その他製品セクターでマイナスとなりました。

＜今後の市況見通し及び投資戦略＞

11月の株式市場は揉み合いの相場展開を想定します。10月の株価上昇により、テクニカル指標面での過熱感や日本株の相対的な割安感が後退したことにより、利益確定売りに押される可能性が高いと考えます。しかしながら下落局面では日銀のETF買いが期待できることや、企業業績も想定内の悪化にとどまっていることから下落余地も限定的と思われます。

今後の運用方針は、個別企業の業績・需給動向や国内外のマクロ動向を勘案し、相対的な割高・割安を適切に判断しながら、マーケットの上下に左右されない安定した収益の獲得を目指します。

【ウィズダム】

＜ファンド運用状況＞

10月の運用成績はJPY-Fクラスで-0.71%でした。インデックス主導で上昇となる中、セクター内の銘柄選択効果は概ねプラスとなりました。一方で、株式インデックス（先物、ETF）でショートしている部分（20%弱の構成比）についてロングサイドの個別銘柄がインデックスに相対的に劣後し、マイナスの収益となりました。

個別銘柄レベルでは、ロングポジションで日立製作所（6501）、東洋インキ（4634）、ショートポジションでディー・エヌ・エー（2432）、山崎製パン（2212）がプラス収益に寄与しました。

＜今後の市況見通し及び投資戦略＞

11月の株式市場は緩やかな上昇を予想します。米国大統領選のイベント通過で不透明感が払拭されることや国内企業の中長期企業業績が想定範囲内の悪化に留まっていることなどから、上値を試す展開を予想します。但し、大統領選でトランプ氏が選出されることが円高、株式下落リスクと考えられます。

今後の投資戦略につきましては、クオンツモデルとトップアナリストによる投資評価の双方を活用し、銘柄選択により安定的な収益を目指します。

【レゾリューション】

＜ファンド運用状況＞

小型株は、市場全体で見るとやや優位に終わりましたが、マザーズ銘柄を含め、内需グロース、いわゆる小型株らしい銘柄については弱く、7月からのトレンドに変化が無い印象です。

リバーサル傾向も見られますが、市場でショートポジションとなっている銘柄については値持ちが良いなど、需給的な色彩も見られます。

ポートフォリオは、グロースエクスポージャーを200%に引き上げる一方で、TOPIX先物から、個別銘柄のショートへの切替を進めました。

全体として、ややリバウンド傾向が見られた景気敏感・割安銘柄のロングがプラス寄与し、一部グロース株のロングや、外需銘柄のショートが一部マイナス寄与となりました。

＜今後の市況見通し及び投資戦略＞

個別に大きな値動きも見られますが、小型株の売買は盛り上がりがないと思われるため、引き続きファンダメンタルに注目した局地的な銘柄選択を行います。

ハイパリュエーション銘柄の調整は継続すると考えますが、業績面で着目すべき点のない割安小型株が評価されることもないと思われれます。

上期決算の発表に併せて、大きな値動きも想定され得ますが、来期以降を見据えた業績トレンドを吟味し、一方で利益確定の機会をとらえます。

個性のある小型株のロング部分で引き続きパフォーマンス確保を狙います。

業績モメンタムの変化に留意し、業績拡大可能な割安銘柄の組入れと、競争力など中期的な視点により割安銘柄と割高銘柄の選別を進めます。

投資信託の主な関係法人

管理会社:	インターナショナル・マネジメント・サービス・リミテッド
信託会社:	G.A.S. (ケイマン)リミテッド
管理事務代行会社:	エスエムティー・ファンド・サービス(アイルランド)リミテッド
保管銀行:	スミトモ・ミツイ・トラスト(ユークイ)リミテッド
投資運用会社:	エピック・パートナーズ・インベストメンツ株式会社 金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第432号 加入協会:一般社団法人 日本投資顧問業協会
代行協会員・日本における販売会社:	ヘッジファンド証券株式会社 http://hedgefund-sec.com/ 金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第2580号 加入協会:日本証券業協会



エピック・ヘッジファンド・セレクション1 月次運用レポート

金融商品取引法に基づく表示

商号等

エピック・パートナーズ・インベストメンツ株式会社
金融商品取引業者 関東財務局長（金商）第432号

当社が加入する協会等について

一般社団法人 日本投資顧問業協会 加入 第011-01395号

ご注意事項

- 当資料は投資信託の運用状況をお知らせするためにエピック・パートナーズ・インベストメンツが作成した資料であり、法令に基づく開示資料ではありません。
- 投資信託をお申し込みの際は、販売会社から投資信託説明書（交付目論見書）をお受け取りになり、その内容をよくお読みいただきご確認のうえ、お客様ご自身が投資に関してご判断ください。
- 当資料は特定の有価証券等の取得の申込み、投資顧問契約、投資一任契約の勧誘等を目的としたものではありません。
- 当資料内の運用実績等に関するグラフ、数値等は過去のものであり、将来の運用成果等を示唆または保証するものではありません。
- 当資料内のいかなる内容も、将来の市場環境の変動等を保証するものではありません。
- 当資料は各種の信頼できると考えられる情報源から作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。
- 投資信託は、株式等を投資対象としますので、組入株式の価格下落や、組入株式の発行会社の倒産や財務状況の悪化等の影響により、基準価額が下落することがあります。
したがって、投資家の皆様の投資元金は保証されているものではなく、基準価額の下落により、損失が生じることがあります。
- 運用管理費用、監査費用、その他の諸経費が、投資信託の保有期間に応じてかかりますが、事前にその上限を示すことができません。また、有価証券の売買等に係る手数料、租税等が発生しますが、運用の状況により変動しますので事前にその上限を示すことができません。

**当資料は、投資運用会社であるエピック・パートナーズ・インベストメンツが投資信託の運用状況をお知らせするために作成した資料であり、法令に基づく開示資料ではありません。
投資信託をお申し込みの際は、販売会社から投資信託説明書（交付目論見書）をお受け取りになり、その内容をよくお読みいただきご確認のうえ、お客様ご自身が投資に関してご判断ください。**